古民家だより

No. 42
令和４年（2022 年）５月６日（金）
越谷市教育委員会　生涯学習課

田んぼに水が入り、何万種類もの緑が陽光に映える美しい季節になりました。大型連休中に田植えも始まっています。旧東方村（レイクタウン）と大間野の中村家住宅では今年も綿の栽培を始めました。

明治期～第二次大戦直後の貴重な史料が市立西中学校から寄贈されました。今号ではその中から新制中学校設立期のものをご紹介します。

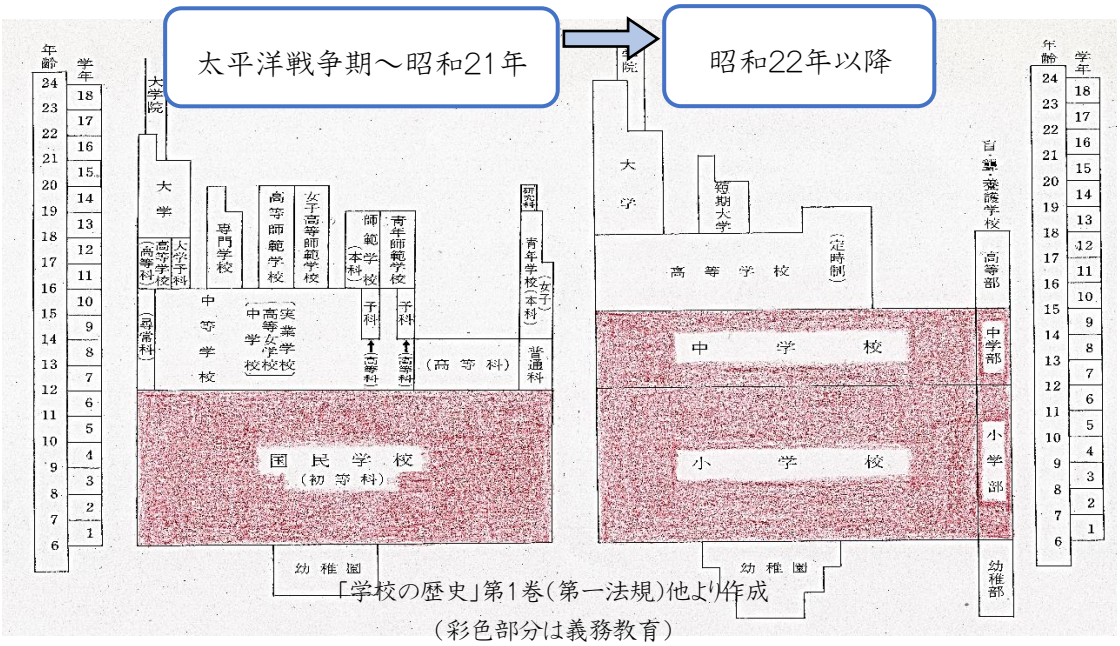
新制中学校誕生　苦難を乗り越えて

現在、中学校は３年間の義務教育で、これは昭和 22 年（1947 年）以降に設立されたものです。（**新制中学校**）戦前の中学校は男子の５年制（後に４年制）で義務教育ではなかったので、小学校（国民学校）卒業時に入学試験によって入学しました。（**旧制中学校**）女子は同様に高等女学校でした。

六・三制：教育の機会均等とその拡大

第二次大戦後の学校制度は「六・三制」と言われます。小学校６年間と新制中学校３年間が義務教育となったからです。（但し、同じ“義務教育”といっても、戦前と戦後とではその意義が異なります。）

ポツダム宣言を受け容れた日本は、ＧＨＱ（連合国軍総司令部）の下で国家再建に取り組みました。学校制度もその対象で、国民の教育を受ける権利を均等に拡大するために中学校３年間までを義務教育としたのです。昭和 22 年（1947 年）に文部省から出された「新学校制度実施準備の案内」には『学校制度を改革して教育の刷新を図ることは、日本再建の根基に培う極めて重要な作業であるから、その準備並びに実施に対しては、教育者は勿論、あまねく一般の熱心な協力と努力とを切望するものである。』とあります。



「学校の歴史」第１巻（第一法規）他より作成
（彩色部分は義務教育）

市域で１１校の新制中学校

現在の市域では昭和 22 年当時には下表のように旧町村に 1 校ずつの新制中学校が設立され、その後に統合されていきました。

昭和 22 年(1947 年)設立の新制中学校(町村立)	その後に統合した中学校(年)
増林中学校、大相模中学校	町立東中学校　昭和 32 年(1957 年)‥翌年、市立に
越ヶ谷中学校、大沢中学校	市立中央中学校　昭和 34 年(1959 年)
新方中学校、桜井中学校、大袋中学校	市立北中学校　昭和 35 年(1960 年)
蒲生中学校、川柳中学校	市立南中学校　昭和 35 年(1960 年)
荻島中学校、出羽中学校	市立西中学校　昭和 38 年(1963 年)

理想を掲げて（発足時の学校経営方針）

「昭和 22 年度 出羽村立出羽中学校 経営の努力点」の中に次の記述があります。

学習指導の確立
伸展性ある明朗な生活へ
生徒の現実生活、家庭の実態調査
平面的学習より立体的学習へ
図書購入活用　　クラブの適正指導

学習指導要領（試案）　昭和 22 年3月

いまわが国の教育はこれまでとちがった方向にむかって進んでいる。（中略）目標に達するためには、その骨組みに従いながらも、その地域の社会の特性や、学校の実情、児童の特性に応じて、それらの事情にぴったりした内容を考え、その方法を工夫してこそよくいく･･･

（これは当時の文部省が教師の手引きとして作成したものです。）

この「努力点」は右の学習指導要領を踏まえて作成されたものです。教師から知識を一方的に教え込んでいくのではなく、生徒の学習活動を工夫することが求められるようになりました。次のように*新しい教科*も生まれました。

◆社会科・・・それまでの修身、公民、地理、歴史を融合して一体として学ぶために設けられた教科。
◆自由研究・・生徒がより発展させたい学習を行う時間。これは後に「特別教育活動」（学級会、生徒会等）に変更。
◆選択科目・・外国語、職業（家庭科等）、自由研究から生徒または学校が選択。複数組み合わせ可能。

希望と混乱の中で

新制中学校の建設

それまではなかった新制中学校（旧制中学校や高等女学校は受験して入学した学校で、戦後の高等学校の母体となりました。）はどこに、どのように建設されたのか、寄贈された資料からみてみましょう。

		村立出羽中学校	村立荻島中学校
場　所		出羽小の北側	現文教大学の場所
建設費	村税･村債	1, 200, 000 円	1, 000, 000 円
	国庫支出金	1, 937, 130 円	406, 800 円
	寄付金	1, 553, 095 円	1, 324, 400 円
	計	4, 690, 225 円	2, 731, 200 円
生徒数(昭和 22 年)		122 名	115 名

「六･三制関係書類」、「新設中学校校舎」（西中学校資料より）

左の表からは、建設費に占める寄付金の割合が非常に高いことがわかります。出羽村では一戸 500 円の募金計画がたてられました。昭和 25 年当時の国家公務員初任給は 4223 円、米 10 kgは 990 円（東洋経済新報社「昭和国勢総覧」等による）でしたので、各家庭にとっても大きな額でした。

このように新制中学校建設費用の捻出はどこの市町村でもとても苦しい状況でした。国や地域の再建のために、将来世の中を支えていく青少年のために、地域の人々が骨を折って建設されたものでした。

それでも教室が足りずに一教室に 45 名以上のことも多々あり、二部や三部授業を行うこともあって、子供たちの学力低下や非行問題が当時の新聞には報じられています。（「朝日新聞」昭和 24 年 8 月 23 日付）

越谷市域では昭和 29 年（1954 年）に 2 町 8 村が合併して「越谷町」となったことを契機に、新制中学校の統合が計画されていきました。そして新生越谷市では『統合によって教育効果の増大と経費の節減を図る』ことをねらいとして統合を進めました。（「広報こしがや」（昭和 34 年 3 月 15 日付、5 月 1 日付）の記事）

現在の市立中学校１５校はこのようにしてスタートしました。戦後の混乱や困窮の中で、地域の人々は難問を克服しながら新制中学校を開設したことが１５校に繋がっています。